

令和7年度 今治市野間馬ハイランド指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市野間馬ハイランド
所在地	今治市野間甲8番地
指定管理者	名 称 野間馬保存会 代表者 会長 小澤 剛 住 所 今治市阿方甲246番地1
モニタリングの 実施方針・方法 等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。 その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。
担当部課 (問合せ先)	総合政策部 交流振興局 観光課 TEL:0898-36-1541 E-mail:kankou@imabari-city.jp

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	A	施設の設置目的である「野間馬の保存育成及び活用を図る」ため、管理運営の基本方針を十分理解して指定管理者業務を実施しました。	A	適正に業務が実施されており、利用者の平等な利用機会の確保が図られるとともに、施設の設置目的に沿った管理運営が行われている。
利用状況	B	夏の猛暑や、乗馬できる馬の高齢化により、多くのお客様を乗せることができませんでした。来園者は、昨年の約127.4%となり、特に1月、2月の河津桜の時期は観光バスが連日たくさん入って賑わいました。また、2月に野間馬が県の天然記念物に指定されたことも来園者が増加した要因であると考えられます。	B	高齢化が進む野間馬の健康管理を優先し、主要事業である乗馬体験を縮小したことにより、乗馬利用者数が減少したことはやむを得ないものと理解できる。 一方で、今後は施設の魅力向上及び利用者増加に向け、乗馬体験以外の事業やプログラムの開発・充実に努めていただきたい。
事業収支	A	野間馬保存会の経理に関しては、越智今治農業組合乃万営農センター長が担当しており、会計帳簿の整理や会計伝票の作成、印鑑の管理などを適切に行っています。また、収支計画に基づいて予算執行を行い、今年度も各種補助金を活用して、スムーズな施設の管理運営をすることができました。	A	令和7年度から指定管理料が増額されたものの、飼料価格の高騰が続く中、指定管理料の範囲内で業務を継続するとともに、各種団体の助成制度を積極的に活用している点は評価できる。 今後も物価高騰の影響が継続することが見込まれることから、引き続き経費の節減及び計画的な予算執行に努めていただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
管理運営体制	B	維持管理業務について一定水準の取り組みを行いました。組織内研修では削蹄の技術研修や植栽管理の技術向上を図り、新規採用職員が派遣研修に参加しました。	B	業務運営に支障が生じないよう勤務体制を工夫するとともに、組織内研修等を通じて職員の知識・技術の向上に取り組んでいる点は評価できる。 一方で、職員数の不足により職員一人当たりの業務負担の増加が懸念されることから、業務執行体制の維持・強化に向け、必要な人員の確保に努めていただきたい。
管理運営業務	A	管理業務については、管理基準に則り業務に取り組んでいます。特に植栽管理及び清掃管理業務については、職員全員で積極的に取り組んでおり、管理運営の基本方針にあるとおり、清潔感のある人の目が行き届いた公園の管理を行いました。	A	職員が一丸となって公園の維持管理に取り組み、園内の環境が良好に保たれている点は高く評価できる。 当施設は公園利用を目的とした来園者も多いことから、引き続き適切な維持管理を行い、来園者にとって快適で憩いの場となる環境の確保に努めていただきたい。
利用業務	B	施設の利用調整・受付等の業務に当たっては、関係法令及び仕様書等に基づき、公平公正に実施しました。また、利用促進に関する業務については、ちびっ子のまうま祭を開催し、PR活動にも積極的に取り組みました。また、無料の観光雑誌への情報掲載、撮影や取材対応（特に愛媛県指定文化財の関係）、ホームページで更新の頻度をあげて野間馬ハイランドを紹介する様に努めました。	B	高齢化が進む野間馬の健康状態に配慮しながら乗馬体験を実施するとともに、無料広告への掲載や各種メディアの取材に積極的に対応し、施設の周知に努めた点は評価できる。 今後は、SNS等を積極的に活用し、施設の魅力発信及び愛媛県指定文化財である野間馬のさらなるPRに努めていただきたい。
飼育管理業務	A	鹿児島大学や岡山理科大学、日本馬事協会等の専門機関と連携し、野間馬の繁殖に努めました。また、岡山理科大学には、採血等による健康管理や仔馬の死亡原因究明のため死亡馬の解剖を依頼しました。馬にストレスが少なく健康に生活できる環境を考えて、飼育・繁殖に取り組み、頭数を維持するように努めました。	A	令和8年2月に愛媛県指定文化財に指定された野間馬の頭数維持に向け、専門機関と連携した健康管理など、保存・飼育に係る取組体制の整備が進められている点は評価できる。 今後も、計画的な繁殖や利活用馬の調教等の課題に対し、種の保存と利活用のバランスに配慮しながら、専門機関の知見を積極的に活用し、持続的かつ効果的な管理運営体制の構築に努めていただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
その他業務	A	来園者が安全に快適に当施設を楽しめるように、防災マニュアルの定期的な確認や、受動喫煙防止に努めました。また、休日にのみ乗馬を実施し、平日は馬を休ませるように運営することで、乗馬できる馬が高齢化している中で、できるだけ多くの方に乗馬体験をしてもらえるように取り組みました。さらに、アンケートを実施することで、セルフモニタリングを実施して改善に取り組みました。	B	全職員が防災マニュアルの内容を定期的に確認するとともに、アンケート等を通じて利用者ニーズの把握に努めるなど、安全で適切な施設運営に取り組んでいる点は高く評価できる。 今後も安全管理を徹底するとともに、種の保存を最優先に考えながら、適切かつ安定的な施設運営に努めていただきたい。
修繕業務	A	施設の老朽化等による修繕や部品の交換を実施しました。今後も来園者の安全管理や、衛生管理に重点を置いて必要な修繕の実施に取り組みます。	A	施設の老朽化が進む中、必要な修繕を適切かつ積極的に実施し、施設機能の維持に努めている点は評価できる。 今後も施設の状況や予算とのバランスを考慮しながら、計画的かつ効果的な修繕・維持管理に努めていただきたい。
備品管理業務	B	今年度は公園の植栽管理に必要な備品（プロワ）の購入を行いました。また、既存物品については点検を行いながら、適切に使用しました。	A	各種団体の補助金を活用した計画的な備品の整備に努めるとともに、適切な管理が行われている点は評価できる。 今後も、備品の適正な購入及び管理を徹底し、効率的かつ有効な活用に努めていただきたい。
自主事業	B	自主事業として、毎月任意の1日を「のまうまの日」とし、乗馬料を1人につき1回免除にする「のまうまの日（無料体験乗馬）」の実施、野間馬クラブの活動や野間馬ハイランドの近況等を掲載し、「のまうま新聞」の発行を行いました。	B	定期的な自主事業の実施を通じて、野間馬のPRに取り組んでいる点は評価できる。 今後は、新たな自主事業の企画・実施に取り組み、さらなる来園者数の増加に向けた取組の充実に努めていただきたい。
地域団体との連携	A	市内教育機関の遠足や職場体験、今治市立乃万小学校の総合学習や野間馬クラブの受け入れ、地域清掃活動への積極的な参加や地域活動への場所の提供などを通じて、地域団体と良好な関係を築きました。	A	市内教育機関からの職場体験の受け入れや地元小学校との連携に取り組んでいる点は評価できる。 今後も、地域との連携を継続し、良好な関係の維持・発展に努めていただきたい。
利用者アンケート	B	アンケート結果については、ほぼ満足いくものでした。また、アンケート結果を基に、日々のミーティングにおいて利用者のさらなる満足度向上に向けて取り組みました。また、入園料や駐車場が無料であることが、満足度の高評価につながっており、施設の改善要望については可能な限り対応しました。	B	利用者アンケートにおいて施設に対する好意的な評価が多く寄せられている点は評価できる。 今後も利用者満足度の高水準の維持に努めるとともに、改善要望については速やかな対応を図り、対応が困難な事項については市と適切に協議の上、対応を検討していただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
事故・苦情	A	事故・故障については、入園者に何事もなかったが、慢心することなく今後も継続して入園者の安全確保に努めます。また、苦情や要望があった場合には、朝礼・終礼のミーティングにおいて職員全員で情報共有を図り、迅速に丁寧な対応に取り組む体制を整えています。	A	入園者の事故が発生することなく、施設の安全な運営が確保されている点は評価できるが、職員の負傷が発生していることから、原因の検証を行い、再発防止策の徹底に努めていただきたい。 今後も、緊急時を想定した対応体制の強化を図るとともに、職員間で適切な対応が可能となるよう、情報共有体制の充実に努めていただきたい。
指定管理者の経営状態			事業報告書を確認した結果、指定管理者として適切な管理運営が実施できていると認められた。	

総 合 コ メ ン ト (市)
指定管理者である野間馬保存会は、今治市野間馬ハイランド条例及び施行規則並びに業務仕様書に基づき、施設の特性を踏まえた適切な管理運営に努めており、指定管理業務はおおむね適正に実施されていると認められる。 今年度も、高齢化が進む野間馬の体調に配慮し、夏季の乗馬体験の縮小や、「ちびっ子のまうま祭」を気温の低下する10月下旬に開催するなど、種の保存を優先した運営を行っている点は評価できる。 今後も、鹿児島大学、岡山理科大学及び日本馬事協会等の専門機関との連携を図りながら、令和8年2月に愛媛県指定文化財(天然記念物)に指定された野間馬について、種の保存と観光資源としての利活用のバランスに配慮した適切な管理運営に努めていただきたい。